

		No.	要求機能
基本仕様		1	クライアントはWindows11以降であること。
		2	利用者公開システムはiOS/Androidに対応したシステムであること。
		3	図書館システムの各業務は最新のMicrosoft Edge（IEモード）またはGoogleChrome上で動作可能であること。
	セキュリティ	4	図書館システムはセキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン（applet）やクライアントで動作可能であること。
		5	図書館システムは最新のMicrosoft Edge（IEモード）またはGoogleChromeのみをアップデートすれば、セキュリティ対策ができること。
		6	図書館システムはクライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
		7	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTP-AUTH、SMTPSに対応していること。
		8	ID、パスワードによるセキュリティー管理ができること。
		9	オペレータIDのパスワードは桁数制限・文字種制限に対応していること。ログイン失敗時、ログアウトできること。
		10	特権ID（管理者オペレータID）は一般オペレータIDとは別に離席監視の設定をすることで、自動ログアウトができること。
		11	ログイン時、及び貸出／返却／予約や、利用者登録／検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。
		12	次のアクセス情報が保存できること。 ・アクセス日／時刻 ・アクセス館 ・IPアドレス ・アクセスした業務 ・アクセスした利用者情報
		13	アクセス記録を保存する／しないを任意設定で変更できること。
		14	保存されたアクセス記録を帳票印刷できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞り込み印刷ができること。
		15	保存されたアクセス記録をCSV形式にデータ出力できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞り込み印刷ができること。
		16	特定の利用者情報を扱う帳票印刷やデータの出力時に、パスワード設定ができること。
		17	利用者及びオペレータIDのパスワードは、ユーザごとに異なった文字列をソルトとして付与し、十分な暗号化強度を保持していること。
		18	利用者及びオペレータのログイン時に複数の異なる認証要件を要求することにより、セキュリティレベルを高めることができること。（多要素認証対応）
		19	多要素認証機能は、利用者及びオペレータ単位で利用可否を設定できること。
		20	多要素認証で使用する認証情報は、利用者及びオペレータが所有している複数デバイスに対して登録可能なこと。
	言語	21	多言語（UTF-8）を扱えるシステムであること。
	操作性	22	処理選択・コード値選択等がマウス及びファンクションキーで操作できること。キーボード操作も可能で各入力項目間の移動もTABキー・矢印キーで可能であること（矢印キーは上下矢印による移動も可能であること）。
		23	入力項目のカーソル位置が一目で分かるように色等による協調表示ができること。
		24	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのかが目で分かるように注意表示による強調表示ができること。
		25	日付項目はカレンダーからの入力ができること。
		26	カレンダー上にて図書館の休館日を確認できること。
		27	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。
		28	プルダウンに表示される順番は入れ替えが可能なこと。
		29	各種確認画面でのYes／No選択を、バーコード操作できること。
		30	各関連業務内の処理画面（窓口業務内の貸出、返却等）の個々の展開がホーム画面に戻らなくてもできること。
		31	業務画面は、画面サイズを任意に変更可能なこと。
		32	業務画面で複数ウィンドウ処理ができること。
		33	1画面内でタブの切り替えにより複数の情報を表示できること（例：貸出画面で貸出状況、予約状況、利用者通知が切り替え表示可能。）また、各、タブに件数を表示できること。
		34	画面で表示する各種一覧は、選択された明細または特定の項目に関し、コピー＆ペーストが可能なこと。
		35	表示中画面から全ての他業務への切り替えが可能なこと。（例：貸出→書誌）
		36	各業務画面から、オペレータの切り替えが可能なこと。

窓口業務	保守性	37	バッチ処理に必要なインプットファイルをドラッグアンドドロップの簡単操作で指定できること。
		38	ハンディーターミナル及び通信ユニットは現在使用のものを継続して使用予定としており、そちらで問題なく動作すること。
		39	データセンターに停電・瞬電時のバックアップ機能があること（無停電電源装置等）
		40	図書システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能であり、クライアントごとの入れ替えは不要であること。
		41	1 台の端末からシステム共通の設定変更が行えること。
		42	1 台の端末から各クライアントIDの設定変更が行えること。
	拡張性	43	図書館システムは、オプションなどを追加することにより、リライトカード、IC機器などの外部接続に対応できること。
		44	図書館業務メニューから、他関連Webサイト（県立図書館等）を表示できること。また、Webサイトのリンクは任意に設定できること。
	その他	45	職員向けの「お知らせ・イベント情報」表示ができること。「お知らせ・イベント情報」は任意、かつ複数の設定、表示ができること。
		46	業務ホーム画面に「当日の利用状況」表示ができること。
	貸出	1	カウンターにおいて利用者に資料の貸出サービスを行い、個人貸出・団体貸出・相互貸借に対応できること。
		2	画面の背景色（テーマカラー）を共通で設定できること。
		3	画面の表示文字のサイズはディスプレイの解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
		4	利用者コードと資料のバーコード走査のみで処理が可能なこと。
		5	バーコード走査により貸出確定、貸出画面、返却画面の切り替えができること。
		6	利用者カードを忘れた利用者の場合、貸出画面内で利用者検索→利用者特定→貸出処理が可能なこと。
		7	利用者カードを読み込んだ利用者について、詳細情報表示や登録内容の更新が可能なこと。
		8	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理ができること。
		9	館ごとかつ利用者資格ごとに貸出規則（貸出可能日数、延期可能日数、延期回数、督促警告回数、貸出可能冊数、合計貸出冊数）が設定できること。さらに、貸出日数、延期日数、貸出冊数は資料種別ごとにも設定できること。
		10	延滞利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること（確認せず貸し出さないこともできること）。
		11	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返却予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。（確認せず貸し出さないこともできること）
		12	利用者に対する日本語コメント（忘れ物、落し物、その他の案内等）通知ができること。
		13	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。
		14	通知コメントが登録された利用者カードを走査した場合、優先的に通知コメントの一覧が表示されること。
		15	資料についての日本語コメント（付録あり、汚損あり等）通知ができること。
		16	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。
		17	プライバシー保護のため、書名の表示・非表示をあらかじめ設定できること。非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
		18	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数の表示・非表示をあらかじめ設定できること。非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
		19	貸出冊数オーバー、督促資料者、予約あり利用者、コメントあり等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
		20	無効資料、除籍資料、不明資料、予約資料、禁帯資料、他館資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
		21	各種チェックかかった際に、条件のより、操作員の判断で続行するか中止するかを選択できること。
		22	相互貸借資料を貸し出す場合、利用者の返却予定日と相互貸借の返却期限日と比較し、返却期限日を超過する場合は貸出を行うかどうかを判断できること。（確認せず貸し出さないこともできること）。
		23	貸出画面上で、利用者の現在貸出中・予約中資料一覧を表示できること（10件以上／画面）
		24	貸出中（状況）一覧画面で資料の状況（貸出中、予約あり、延滞等）の色分け表示ができること。また、表示文字色と背景色の変更を共通で設定できること。
		25	貸出中の資料を選択指定し、貸出期間の延期ができること。
		26	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。

		27	延長回数が貸出規則の回数を超過したり、予約資料の場合は自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知し延期の可否を判断できること。
		28	貸出延期処理時、貸出統計にカウントするかしないかが設定で選択できること。
		29	貸出中資料の資料コードを再走査することで継続貸出ができること。
		30	継続貸出処理時、回数をカウントして継続貸出処理を制限するかしないかを設定で制限できること。
		31	休館日設定により、返却予定日を休館日を避けた設定にできること。また、貸出画面で随時の設定もできること。
		32	貸出を行うと、利用者コード、貸出本、返却予定日、貸出中本、予約待ち人数が記載された貸出情報が印字され、利用者に渡すことができる機能を標準で有すること。自由なコメントも随時修正できること。
		33	貸出レシートには、休館日情報を記載できること。
		34	休館日情報はシステム内でカレンダーから設定できること。
		35	貸出票はページプリンタ・レシートプリンタに対応し、画面からの出力先を随時切り替え可能であること。
		36	ワンタッチで本人も含め、家族の貸出予約状況が表示できること。
		37	1日の館ごとの貸出冊数、貸出人数の概数を画面に表示できること。
		38	貸出資料一覧表示時、資料識別子（図書・冊子・AV等）が表示され、何を何点借りているか表示できること。
		39	未返却資料を貸出すと、今までの利用者が確認でき、同時にその自動返却が行われること。
		40	貸出処理完了前であれば、今貸出した資料の取消ができること。また取消し時は統計データに反映されないこと。
		41	貸出画面から予約の取消ができること。
		42	貸出画面から紛失処理ができ、督促の対象から外すことができること。
		43	予約していた資料を貸出すと、予約データは消去されること。
		44	貸出中資料の返却予定日を変更できること。
		45	貸出状況一覧で、貸出処理館分の資料のみ表示と全館分の資料の表示ができること。
		46	貸出状況一覧で、資料詳細画面へ遷移し、資料の最終返却者が確認できること。
		47	予約資料一覧からレシート印刷ができること。
		48	予約レシートに予約メモが印刷できること。
		49	予約資料一覧で、予約受取館が確認できること。資料確保は確保館が確認できること。
		50	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報や予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
		51	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
		52	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
		53	利用者ごとに利用者・資料の各種メッセージを閲覧可能なこと。
		54	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。
	返却	1	返却資料のバーコード走査だけで返却ができること。
		2	画面の背景色（テーマカラー）を共通で設定できること。
		3	画面の表示文字のサイズはディスプレイの解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
		4	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行できること。
		5	プライバシー保護のため、書名の表示・非表示をあらかじめ設定できること。また、非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
		6	プライバシー保護のため、利用者氏名、督促日、督促回数の表示・非表示をあらかじめ設定できること。また、非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
		7	利用者に対する日本語コメント（忘れ物、落し物、その他の案内等）通知ができること。
		8	資料についての日本語コメント（付録あり、汚損あり等）通知ができること。また、コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。
		9	無効資料・除籍資料・不明資料・持出資料・他館資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
		10	無効（不明・紛失）となっている資料の返却を行うと、設定により、自動的に無効を解除することもできること。
		11	新刊コーナーの資料のバーコードを走査した際、自動で本来の排架場所に変更できること。
		12	特定場所の資料バーコードを走査した時、自動で設定した場所に変更できること。
		13	相互貸借資料を貸出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。
		14	返却資料のバーコード走査後、貸出画面への展開は次に貸出を行う利用者カードを走査することにより遷移できること。また、バーコードリーダだけで貸出と返却画面の切替え、貸出、返却確定ができること。

		15	予約されていた資料は返却されると、予約対象利用者の情報を自動的に印刷できること。（印刷可否の設定ができること）プリンタはレシートプリンタも対応できること。
		16	予約レシートに予約メモが印刷できること。
		17	希望者には返却照明レシートの印刷ができること。
		18	A館で予約してB館で借りた本をC館で返却しても管理・識別ができること。
		19	ブックポストへの大量の返却本を連続で返却する画面を用意していること。
		20	返却画面で貸出延期ができること。
		21	貸出延期処理時、貸出数をカウントするかしないかが設定で選択できること。
		22	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。
		23	プライバシーの保護のため、原則として返却完了時、貸出データは消去されること。ただし、設定によって当日の返却履歴を保存し、返却完了後でも管理上返却した資料を誰が借りていたか確認することもできること。返却履歴を保存する設定の場合、ボタンで任意に履歴消去できること。また、業務メニュー終了時に自動消去もできること。
		24	貸出資料一覧表示時、資料識別子（図書・冊子・AV等）が表示され、何を何点借りているか表示できること。
		25	その日1日の館ごとの返却冊数、返却人数を画面に表示できること。
		26	本籍館への配送、予約資料の配送管理ができること。
		27	貸出資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報、予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
		28	返却画面表示のまま、離籍した時、一定時間経過後利用者状況の画面消去が自動でできること。
		29	返却状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
		30	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
		31	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で途切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
		32	利用者ごとに利用者・資料の各種メッセージを履表示可能なこと。
		33	予約資料があり、資料を受け取れる状態にある利用者からの返却があった場合には、メッセージなどで表示されること。
		34	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。
		35	返却履歴は1日分の履歴を保持し、自端末のみ／自館端末全ての表示切替が可能なこと。
		36	タグ管理されている資料のバーコードを走査した際、操作員に通知できること。
		37	タグ管理されている資料は、指定期間中は指定された館へ自動配送されること。
	督促	1	画面の背景色を設定できること。
		2	画面の表示文字のサイズはディスプレイの解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
		3	未返却者一覧表示後、延滞資料の在架チェックを行うため帳票が出力できること。
		4	督促対象資料中の予約資料のみ抽出し、メール通知できること。
		5	返却予定日の範囲指定により、未返却者、未返却資料一覧の印刷ができること。
		6	メール発信記録参照画面より、督促メールを発信した、利用者コード、利用者名、メール発信日、時刻、対象資料の資料コードが参照できること。
		7	督促通知メール送信時、インターバル（件数、送信間隔）を指定できること。
利用者管理	利用者検索		利用者氏名（カナ、日本語、全半角の混在が可能）、電話番号、利用者コード、利用者区分、住所コード、生年月日、E-mailアドレスからの検索ができること。電話番号ハイフン抜きでも検索でき、また市外局番なしでも検索できること。
		2	利用者データ検索において生年月日、住所の郵便番号、登録館で絞込みできること。
		3	利用者検索一覧では、利用者の利用者番号、利用者名、性別、利用者区分、電話番号、住所、生年月日、貸出数、予約数が確認できること。
		4	登録利用者の一覧画面表示できること。また、印刷及び、各種OAソフト(Excel等)で読み込み可能な形式(CSV形式)出力できること。
		5	登録利用者の一覧出力では、管理者権限による出力制御ができること。
		6	検索中断件数を設定できること。
		7	利用者の詳細情報が表示できること。氏名、電話番号、生年月日、年齢、住所、最終利用日、最終督促日、督促累積回数、有効期限、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧等が確認できること。また、印刷もできること。
		8	利用者の詳細表示は、簡易⇄詳細による切替が可能なこと。
		9	貸出状況一覧が表示できること。また、個人／家族、全館／自館をワンタッチで切替できること。
		10	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
		11	貸出資料の不明／紛失処理ができること。
		12	貸出資料の詳細情報が表示できること。（資料検索結果画面相当の情報）

窓口業務資料管理		13	予約している資料一覧が表示できること。また、個人／家族の切り替えをワンタッチでできること。さらに、予約解除や予約資料の詳細情報も表示できること。
		14	予約している資料一覧では表示される情報項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
		15	コメント入力機能連携にて利用者に通知したいコメント情報を登録できること（コメント数は無制限）。また、修正、削除もできること。
		16	プライバシー保護のために、利用者一覧及び詳細画面のまま離席した際、一定時間経過メニュー画面へ自動で戻ることができること。
	利用者登録	1	画面の背景色（テーマカラー）を共通で設定できること。
		2	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
		3	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができること。
		4	利用者氏名は漢字を入れ、ワンタッチで自動ヨミ振りができること。
		5	利用者氏名のヨミは漢字入力した通りに自動でヨミ振りもできること。
		6	利用者カードの再発行ができること。その場合、貸出・予約情報は引き継がれること。
		7	利用者氏名・住所等を全半角混在で登録できること。生年月日を西暦で登録することもできること。
		8	住所ファイルを持ち、町丁コードにより住所登録ができること。また、本辞書は住所だけでなく、クラス名、部署名等自由に使用できること。
		9	住所コード数が多い時等の入力負担軽減のため、住所コードを大分類と小分類とで2段階入力できること。
		10	利用者氏名ヨミ、電話番号、生年月日で二重登録者のチェックを自動的にできること。
		11	利用者のE-mailアドレスやパスワード情報の登録ができること。パスワードは非表示で暗号化対応であること。
		12	利用者のE-mailアドレスやパスワード情報の変更履歴が参照できること。参照時特定パスワード等の認証が必要であること。
		13	年齢は生年月日からシステムが判断し、自動計算であること。年次処理等の処理は不要である。
		14	新規登録時、検索で未登録確認後、登録画面に検索条件を複写できること。
		15	コード入力項目へ入力域が移動するとコンボボックスにコード一覧が表示され、マウスで選択入力できること。また、コード値をキーボードで直接入力もできること。
		16	郵便番号や住所名略称での住所検索ができること。
		17	貸出や返却でアラーム通知するコメント情報の追加、修正、削除ができること。また、1利用者につき設定できるコメントは無制限とし、フリーワードの入力もできること。
		18	利用者登録時、初期パスワードの自動発行機能を有すること。
		19	パスワードの発行の際、レシートへの印刷ができること。
		20	初期パスワードの自動発行時、パスワードの有効期限が設定できること。
		21	パスワードの通知方法の初期値を新規登録時を修正時で別に設定できること。
		22	利用者が自身の多要素認証情報を紛失した際、職員が認証情報をクリアし、利用者が認証情報を再登録できる状態に戻せること。
	利用者管理	1	最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、利用者資格区分等の情報を一括で更新できること。
		2	生年月日の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。
		3	利用者ごとにメール発信履歴が参照できること。各種メール内容（督促・予約連絡等）とその発信日時が確認できること。
	資料検索	1	画面の背景色を設できること。
		2	画面の表示文字サイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
		3	書名、著者名、出版社、任意定義項目、分類、ISBN、資料コード、内容等で資料検索できること。書名、著者名、任意定義項目は全半角混在で検索ができること。
		4	各種の可変長マークデータから漏れなく検索できること。（マークデータの全てを検索可能とする）
		5	AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。
		6	10件までの検索結果が履歴管理され、後からその検索結果一覧を表示できること。また、検索履歴からその時の検索条件を復元でき、条件を付加することでより詳細な検索ができること。
		7	項目により、前方一致、完全一致及び中間一致（分かち項目）、後方一致で認識し、検索ができること。
		8	各種検索キーをカナ、漢字、アルファベットの全角両方で指定して検索処理ができること。
		9	うろ覚えのキーワードを過去に登録された文字の中から探し出し、入力する手助けができること。
		10	検索する際に、予測変換が可能なこと。
		11	検索項目を特定せず、キーワードのみの入力で検索できること。

12	キーワード検索では、複数の単語を空白区切り入力し、単語同士のAND条件で検索できること。
13	特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。
14	検索結果から所蔵の状態（不明資料・除籍・貸出中等）の把握ができること。また、複本に対応していること。（検索結果の表示形式を書誌または所蔵単位で切替できること）
15	検索結果は、利用可能、貸出中、貸出禁止、除籍、相互貸借資料により色を分けて分かりやすく表示すること。
16	前項の表示色は任意に変更が可能なこと。
17	指示により、検索結果の印刷ができること。
18	印刷のほか、CSVファイルで保存やエクセルファイルで保存も可能なこと。
19	検索中断件数を設定できること。
20	検索処理中断ボタン操作でも中断可能なこと。
21	対象館を全館、自館限定または任意に複数館指定して検索でき、検索結果も、本が今、どの館でどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。
22	所蔵場所区分、請求記号等の所蔵（ローカル）項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。
23	資料区分をグループ化し、二次検索条件として指定できること。（一般書と児童書を分けて検索することが可能。）
24	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらでも検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ゃ』、『A』と『a』）どちらで入力しても検索できること。さらに音が同じもの『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索できること。
25	上記の規則を任意設定できること。
26	洋書等の登録で英字、数字が全半角混在で入力した場合でも、全角、半角、全半角混在で入力した場合でも検索でき、検索結果は変わらないこと。
27	資料一覧画面では通常登録順（最新が上）だが、ワンタッチで書名順、著者名順、分類順等で整列（ソート）できること。また、その整列順は図書館で任意に設定でき、5パターン以上の設定ができること。
28	前項設定以外でも全一覧項目での並べ替えが可能なこと（ヘッダーソートが可能なこと）。
29	資料検索結果一覧の初期表示標準の設定ができること。
30	資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号が確認できること。
31	資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約、発注へ展開できること。
32	検索項目として使用できる項目の任意設定ができること。図書、雑誌、AV等の種別ごとに設定できること。
33	検索結果一覧として表示する項目の任意設定ができること。
34	検索結果一覧は、項目の掛け合わせによる並び替えが可能なこと。
35	種別（図書・雑誌・AV等）の複数指定による横断検索ができること。
36	画面から典拠対象の追加・修正・削除ができること。また、外部人名典拠ファイルからの一括登録もできること。
37	本に印刷されているISBNバーコードの読み取り検索ができること。
38	所蔵がない、書誌のみのデータ検索もできること。
39	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、入力値未入力で全タイトル検索ができること。
40	検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失／不明処理ができること。
41	検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。
42	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。（返却後の資料に物がはさまっていた場合等の対応のため）プライバシーにも配慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。
43	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード（著者名等）で再検索ができること。
44	検索結果より、その資料が排架地図上のどこにあるのか表示できること。
45	検索結果より、その資料と資料とリンクされているイメージ（画像）情報を表示できること。
46	内容注記や一般注記のように、分かち書きされていない書誌事項の、文中の文言について検索できること。
47	資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
48	利用状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることの内容に表示幅を自由に変更できること。
49	予約状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることの内容に表示幅を自由に変更できること。
50	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと。

		51	国立国会図書館から取得した情報から、書誌登録が可能なこと。
		52	TRCのTOOLiサイトとの横断検索が可能なこと。
		53	TRCのTOOLiサイトから取得した情報から、書誌登録・選定・発注の連携が可能なこと。
	予約	1	画面の背景色を設定できること。
		2	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
		3	館ごとかつ利用者資格ごとに予約規則（予約有効日数・合計予約件数）が設定できること。さらに、予約件数については窓口・館内OPAC・WebOPACごとに設定できること。
		4	予約本の現在の状態（予約中、予約棚、配送中）の管理ができること。
		5	各処理ボタンに割り当てられたバーコードの走査により、画面上の各種処理選択ができること。
		6	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。 書誌予約：複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか1冊が返却された時点で予約通 ができること。 所蔵予約：複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定した資料が返却された時点でのみ予約通知ができること。
		7	予約した時間で予約順位を決めること。また、予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入六日時は保持されること。
		8	本人への貸出中資料への予約を制限できること。
		9	相互貸借資料への予約をチェックし、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
		10	延滞利用者に対して、予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
		11	予約メモ入力ができること。
		12	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別（窓口予約、インターネット予約等）、利用者資格、資料種別（図書、雑誌等）ごとの件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。
		13	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
		14	予約入力の子数統計（予約区分が窓口かWebOPACかと資料種別ごと）が出力できること。
		15	任意に予約取消ができること。
		16	予約取消時、予約取消理由を登録できること。
		17	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。
		18	予約資料情報の一覧が出力できること。
		19	館を認識した検索機能と連動し、自館の本に限定、または全館の本へ拡張して予約をかけることができ、貸出・返却業務とも完全連携ができること。
		20	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。
		21	予約資料一覧画面から、レシートの印刷ができること。
		22	返却等により、利用可能となった利用者を抽出し、予約連絡一覧を表示できること。また、連絡済、未連絡、不在の管理もできること。
		23	予約確保日（予約棚日）で抽出し、メールで予約連絡を通知できること。また、利用者ごとにメール通知可否設定ができること。
		24	予約連絡メール送信時、インターバル（件数、送信間隔）を指定できること。また、メール送信と同時に連絡状態を更新できること。
		25	予約資料の確保状況を更新できること。
		26	取り置き期限を過ぎた資料は自動的に予約取消になるのではなく、操作員の判断で予約取消できること。
		27	予約資料の詳細表示ができること（検索相当の表示ができること）。
		28	WebOPACや館内OPACからの予約依頼状況の確認ができること。予約依頼状況より、操作員判断にて本予約の可否ができること。また、予約可否結果は予約者に対してメールで自動通知もできること。利用者ごとにメール通知可否設定もできること。
		29	予約利用者の受取希望館の選択ができること。
		30	自館に確保できる資料がなく、他館にある場合に予約機能にて配送依頼できること。また、複数館にある場合は依頼先館を選択できること。
		31	予約在架一覧は自館在架を優先に出力できること。
		32	予約連絡メールは自動発信もできること。
		33	連絡不要の予約を確保時、自動で連絡済状態に更新できること。
	配送管理	1	予約配送及び他館返却による配送処理ができること。誤って配送処理した場合、取消もできること。
		2	配送館状況（A館→B館）、配送日等の状況をリアルタイムに確認できること。
		3	自館から予約配送依頼した資料の状況をリアルタイムに確認でき、依頼取消もできること。

		4	他館から予約配送依頼した資料の状況をリアルタイムに確認でき、依頼拒否もできること。
		5	一覧画面で配送状況（配送資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等）が確認できること。
		6	一覧画面で配送依頼状況（配送依頼資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等）が確認できること。
		7	配送元館／配送先館ごとの年間配送状況（返却時の本籍館配送／予約配送／予約取消ごとの月間件数）が印刷できること。
資料管理業務	図書管理	1	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。（完全可変長項目数対応）
		2	複本のデータ管理ができること。
		3	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき最適な運用環境を実現できること。
		4	著作名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこから選択入力できること。
		5	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
		6	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り、分かちができること。
		7	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
		8	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
		9	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
		10	ローカル情報に本籍・現在館の情報を持ち、各館業務に完全対応できること。
		11	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
		12	グループとなる書誌項目をグループ化して登録できること。
		13	各館ごとに排架の場所の名称を登録できること。
		14	各資料ごとに排架の場所を登録できること。
		15	各資料ごとに請求記号を登録できること。
		16	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
		17	対（グループ）となる書誌項目をグループ化して登録できること。
		18	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
		19	書誌情報として、TRCMARC（Tタイプ）パッケージ契約をしているため、引き続き活用できること。
		20	TRC-Tマーク：抽出マーク、ローカルデータを項目の漏れなく一括登録できること。
		21	TRCマーク：内容細目ファイルを、学習件名ファイルを一括登録でき、検索に活用できること。
		22	TRCマーク：内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限なく登録できること。また、人名についても制限なく登録できること。
		23	TRCマーク：目次ファイルを一括登録できること。
		24	TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。TOOLi検索の結果から、マーク情報を確認し、図書登録画面にマーク情報を直接ダウンロードできること。この時、内容細目もあれば同時にダウンロードできること。
		25	書誌・所蔵登録時、指定されたTRCNoまたはISBNマーク情報をダウンロードし、登録できること。
		26	TRCのTOOLi Ver3.0に対応していること。
		27	所蔵登録画面でタブ等の切り替えにより1画面にて、複本情報、貸出状況、予約状況を表示できること。
		28	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF制御ができること。
	雑誌管理	1	タイトル書誌一覧機能により入力簡略化でき、タイトル／巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル（タイトル書誌）は、雑誌コードによる呼出ができること。
		2	タイトルと巻号情報を分けて管理し、検索できること。
		3	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生／分離にも対応できること。
		4	タイトル一覧画面より巻号（バックナンバー）一覧画面を表示できること。
		5	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。
		6	最新巻号の登録時に直前の号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。
		7	最新巻号の登録時に、直前号の巻号情報及びローカル情報を初期表示できること。
		8	巻号を巻／号／通巻で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号予測し初期表示できること。
		9	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこから選択入力が可能であること。

	10	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振 りできること。
	11	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	12	豊富なローカルデータを持てること。
	13	ローカル情報に本籍館・現在館の詳細情報を持ち、各館の業務に完全対応できること。
	14	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
	15	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	16	雑誌のJANコードを読み取って受入ができること。
	17	所蔵登録画面でタブ等の切り替えにより1画面にて、複本情報、貸出状況、予約状況、発注状況 を表示できること。
	18	内容記事入力の際には1つの書誌に対して制限なく登録できること。
	19	TRC社の雑誌MARC／Tの取り込みができること。
AV管理	1	曲名・演奏者・出演者等の各種情報を漏れなく可変長登録できること。
	2	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。
	3	複本のデータ管理ができること。
	4	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき最適な運用環境を実現で きること。
	5	著作名、シリーズ名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データか ら項目一覧を表示し、そこから選択入力できること。
	6	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振 りできること。
	7	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	8	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	9	ローカル情報に本籍館・現在館の詳細情報を持ち、各館の業務に完全対応できること。
	10	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
	11	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	12	所蔵登録画面でタブ等の切り替えにより1画面にて、複本情報、貸出状況、予約状況を表示でき ること。
	13	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの 入力文字属性に応じIMEのON／OFF制御ができること。
	14	内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限なく登録できること。また人名についても制限な く登録できること。
蔵書管理	1	館コードにより各館で管理ができること。
	2	持出禁止区分の設定が連続でできること。
	3	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。
	4	該当資料が手元にない場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができ ること。
	5	コード値（所蔵場所コード等）入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。また、キー ボードにより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できるこ と。
	6	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更連続でできること。また、変更 履歴の画面表示および、バックアップをダウンロードし、変更内容の保存／復元ができるこ と。
	7	ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値 の一括変更ができること。
	8	区分値、貸出回数、最終貸出日等を抽出条件とし、所蔵場所コード等、各種ローカル項目の一括 変更ができること。 例：公開排架資料で最終貸出日が特定日以前の資料を、閉架排架に変更する。
	9	マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌（タイトル）情報とローカ ル情報がミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することがで きること。
	10	装備されているバーコードが汚れ等で読み取りできなくなり、別な番号でバーコードを張り替 える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。
	11	同一書誌がある場合など特定書誌の所蔵、貸出、予約、相互貸借情報を別書誌に付け替えるこ とができること。
	12	複数タイトルの資料（主に雑誌）を製本（合本）することができること。一度製本したデータ をもとにばらすこともできること。検索で製本された元の資料情報も参照できること。
	13	館内OPACおよびインターネット向けサービス（WebOPAC）で紹介する「おすすめの本」の バーコード指定を、オンライン登録（バーコード入力）／HHTからの一括登録のどちらでも可 能なこと。
	14	「おすすめ本」のバーコード指定資料は、一覧印刷／CSVファイル出力が可能なこと。
	15	資料の付録の有無を登録することができること。

	16	資料の除籍・削除処理時、廃棄予定日以前の場合にメッセージ表示が可能なこと。
	17	資料の除籍・削除処理時、他に利用可能な複本がない場合にメッセージ表示が可能なこと。
	18	特集やコーナーのタグ管理ができること。
蔵書点検	1	蔵書点検前処理等の事前処理なしで蔵書点検ができること。
	2	オンライン・オフラインの両方で蔵書点検ができること。
	3	ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明、除籍、未登録、貸出中未返却、排架違いの資料のチェックリストを出力できること。
	4	ハンディーターミナル及び通信ユニットは現在使用のものを継続して使用予定としており、そこからスムーズにクライアントパソコンへデータの取り込みができること。
	5	蔵書バーコードの未入力（点検もれ）の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力、累積し、最終的に不明資料を確認できること。
	6	蔵書点検の結果を、不明資料一覧として印刷できること。
	7	一定（任意指定可）回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。
	8	各館および場所ごとに蔵書点検ができること。
選書	1	MARCN _o /ISBN/資料コードをバーコード走査により、選書対象の資料を特定し選書ができること。
	2	資料検索との連携により、選書対象の資料を特定し選書作業できること。
	3	選書時は、選書対象の資料情報に加え、資料に紐づく発注数、複本数、予約数を確認できること。また、各件数の詳細は一覧にて確認できること。
	4	選書時は、各館を含めた選書状況を確認できること。
	5	選書データの追加ができること。また、一度に複数館分の選書データをまとめて追加する機能を有すること。
	6	選書データの修正ができること。
	7	選書データの削除ができること。
	8	TRCマーク：選書時にTRCへの注文情報の指定が可能であること。
	9	選書時にリクエスト情報の登録ができること。登録されたリクエスト情報は、発注処理後に対象の発注情報とリンクされること。
	10	各館の選書状況が通覧して確認することができること。また、選書状況を確認後、一括で発注処理ができること。
発注	1	同一書誌に対する二重発注のチェックができること。
	2	新刊案内のバーコード走査することにより発注できること。また、発注データを作成できること。
	3	雑誌等の逐次刊行物を年単位で一括発注できること。発注時、指定した刊行頻度情報（月刊等の刊行頻度や発売日または曜日等の情報）より、年間受入回数分の発注明細が表示できること。また、発注明細ごとに発行予定日が自動計算され表示できること。
	4	発注の取消ができること。
	5	発注時処理から予算の差引処理ができること。
	6	発注中の本に対して予約できること。
	7	予約が登録されている発注の取消し処理をする際、メッセージ表示が可能なこと。
	8	発注資料のマーク番号を連続入力し、まとめて発注できること。
	9	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切替もできること。
	10	発注画面で、予約状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切替もできること。
	11	発注画面で、発注状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切替もできること。
	12	発注処理の前に選定データ（選書）の作成が可能であり、選定結果を確認後、発注できること。選定入力は資料検索・TOOLi検索と連携できること。これより、複数館から選定データを起こし、発注館で一括して選定データを確認し発注処理ができること。
	13	TRCマーク：TRC発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。
	14	TRCマーク：発注管理マークを一括登録し、発注時、選書データとして活用できること。
	15	TRCマーク：「週刊全点案内」のバーコード（TRCN _o ）を走査し、発注できること。
	16	TRCマーク：TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。図書館システム画面上でTOOLiと直接通信し、TOOLi検索/ダウンロード/在庫管理/TOOLi発注/発注状況照会/月別注文状況/MARCデリバリー処理を行うことができること。
	17	TRCマーク：TOOLi発注用のデータ作成・送信ができること。また、見計らい・クイック発注にも対応できること。
受入	1	発注情報を参照しながら、受入処理ができること。
	2	受入処理で予約本のチェックを行い、操作員に通知できること。予約棚確保もできること。
	3	受入行為から予算の差引処理が自動で行われること。また各種抽出マークやローカルマークによる一括受入時にも予算の差引が処理ができること。

		4	TRC-Typeマーク：ローカル情報をマークデータより一括受入時に、対象の発注情報を参照できること。
		5	マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすること。
		6	現物受入れの際には館、資料種別、請求記号ごとに設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。
	予算設定	1	年ごと、月ごとに予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。入力は各区分を細かく設定して行い、表示は各区分を細かく、または全体表示ができること。
	相互貸借	1	借受本の簡易登録ができること。
		2	利用者からのリクエストに応じて、他館への相互貸借資料の借受依頼ができること。借受依頼の際、書誌（タイトル）情報の簡易登録ができること。
		3	借受依頼の際、相互貸借申込書の印刷ができること。
		4	借受依頼によって借りた資料が届いた際、先に登録した簡易書誌（タイトル）情報に簡易所蔵（ローカル）情報を登録と連携してリクエスト予約登録ができること。（リクエストした利用者に紐づけできること）
		5	相互貸借資料を利用者に貸し出すことができること。
		6	相互貸借資料を他館へ返還する際、相互貸借資料一覧を印刷し、資料に添付して返還できること。
		7	他館から借り受けた資料のバーコードは、そのままでも利用できること。また、自館で独自に新しくバーコードの付け替えることもできること。
		8	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードをそのまま利用する場合、自館資料と同一バーコード番号の資料でも読み取りできること。貸出／返却時に同一バーコードを検知し、職員判断で選択できること。
		9	他館から依頼された相互貸借資料を貸出する際、相互貸借資料貸出票を印刷し、添付して送付できること。
		10	どこの館から資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受館へ返却済か等の状態も表示可能であること。
		11	借受資料を、借受館、書名タイトル、受入日、返還予定日、依頼日で検索できること。また、検索結果を印刷・CSVで出力できること。
		12	統計資料として、相互貸借館ごと、月ごとの貸出冊数、借受冊数、分類ごと月ごとの貸出冊数、借受冊数や実績一覧（借受タイトル・貸出タイトル）が印刷できること。
	オフライン処理	10	電源事故や回線事故に備え、サーバが稼働していない状況でもカウンター業務ができること。
		11	事故からの回復後、上記で処理した内容の反映ができること。
利用者開放端末（OPAC）	利用者開放端末（OPAC）全般	1	最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。
		2	セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン（applet）やクライアントで動作する仕組み（JWS）などではないこと。
		3	Microsoft Edge(IEモード)またはGoogleChromeのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。
		4	セキュリティに配慮し、クライアントにJavaをインストールしなくても動作すること。
		5	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTPSに対応していること。
		6	画面はワイドディスプレイにも対応していること。
		7	書名、著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。
		8	キーボードレス（タッチスクリー）操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。
		9	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。
		10	書名、著者名、出版社、任意定義項目、分類、ISBN、資料コード、内容等で資料検索できること。書名、著者名、任意定義項目は全半角混在で検索ができること。
		11	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらでも検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ヤ』、『A』と『a』）どちらで入力しても検索できること。さらに音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索できること。
		12	検索中断件数の設定ができること。
		13	雑誌資料について、タイトル表示とタイトルごとの巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。
		14	検索結果詳細として表示する項目の任意設定ができること。
		15	Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。
		16	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ（画像）情報を表示できること。
		17	検索結果より、その資料が排架地図上のどこにあるのか表示できること。
		18	詳細画面より、受取可能な予約受取館の表示ができること。
		19	詳細画面より、予約申込できること。

	20	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
	21	予約件数の制限がかかること。処理館、予約区分、利用者資格、資料ごとに件数制限ができること。
	22	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	23	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	24	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	25	本人への貸出中資料への予約を制限できること。
	26	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者資格ごと、利用者単位に初期設定できること。
	27	他館に予約可能な資料がある状態でも予約できること。
	28	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。
	29	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
	30	予約完了時、利用者控えの出力ができること。
	31	おすすめ本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。
	32	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻ること。
	33	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からお知らせ表示ができること。
	34	OPAC各機能の利用回数統計が出力できること。
	35	画面遷移をパンくずリストとして表示し、パンくず指定にて画面遷移できること。
	36	館内OPAC背景画像の変更が可能なこと。
	37	館内OPACマスコットの変更が可能なこと。
	38	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	39	予約申込時に指定した連絡方法・受取館を次回予約申込時に表示できること。
	40	典拠を参照した詳細検索が可能であること。
	41	テンプレートを選択して、デザインを変更する機能を有すること。
	42	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。
利用者開放端末 (OPAC) 大人向け	1	検索項目を特定せず、キーワードのみの入力で検索できること。
	2	検索項目を指定するキーワード検索もできること。
	3	キーワード検索にて、全館対象／自館限定／任意の複数館の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
	4	全文検索ができること。
	5	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
	6	著者名＝イケナミショウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
	7	各種一覧の表示をタイル形式または一覧形式を選択して表示できること。
	8	雑誌ジャンル（例：料理、車、美術等）を登録しておき、特定ジャンルのタイトルを一覧表示できること。
	9	貸出ランキン一覧が表示できること。資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示ができること。
	10	予約ランキン一覧が表示できること。資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示ができること。
	11	ランキングは、集計期間が変更できること。
	12	検索結果一覧は、図書、雑誌、視聴覚資料の単位で表示できること。
	13	検索結果一覧を並び替えできること。
	14	検索結果一覧に条件を追加し、絞り込みできること。
	15	検索結果一覧が複数ページにわたる場合、移動先のページを指定して遷移できること。
	16	検索結果の一覧が印刷できること。
	17	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	18	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
	19	巻号一覧に条件を追加し、絞り込みできること。
	20	一覧表示から1件を選択し、詳細表示できること。
	21	詳細画面では主要な項目（タイトル、シリーズ、責任表示等）を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	22	詳細画面に所蔵点数、貸出可能点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
	23	詳細画面に資料の所蔵館、それぞれの館で貸出可能・貸出中・貸出禁止かが表示できること。
	24	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	25	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	26	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	27	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	28	利用者カード番号、パスワード、ワンタイムパスワードの多要素を使用したログインが可能なこと。

	利用者開放端末 (OPAC) こども向け	1	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
		2	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。
		3	こども向け画面では、こども向けの資料（区分で制御すること）に限定した検索ができること。
		4	キーワード検索にて、全館対象／自館限定／任意の複数館の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
		5	著者名＝セナケイコのように、特手の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
		6	貸出ランキンガー一覧が表示できること。
		7	各種一覧の表示をタイル形式または一覧形式を選択して表示できること。
		8	検索結果一覧は資料管理区分単位で表示ができること。
		9	雑誌の場合タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
		10	検索結果の一覧が印刷できること。
		11	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
		12	一覧表示から1件を選択し、詳細表示できること。
		13	詳細画面は主要な項目（タイトル、シリーズ、責任表示等）を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
		14	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
		15	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
		16	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
		17	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
		18	利用者カード番号、パスワード、ワンタイムパスワードの多要素を使用したログインが可能なこと。
利用者インターネットサービス	インターネット向けサービス (WebOPAC PC／ スマートフォン／タブレット ／全般)	1	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザ端末から蔵書検索ができること。
		2	最新の複数ブラウザ（IE、Chrome等）に対応すること。
		3	レスポンシブデザインに対応し、マルチデバイス（PC、タブレット、スマホ）において同等の機能と操作性を有すること。
		4	総務省が提唱するアクセサビリティの基準においてA以上とすること。
		5	書名・著者名・出版社・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。
		6	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらでも検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ゃ』、『A』と『a』）どちらで入力しても検索できること。さらに音が同じもの（例：『ヴァ』と『バ、』『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索できること。
		7	検索中断件数の設定ができること。
		8	雑誌資料について、タイトル表示とタイトルごとの巻号一覧が表示できること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示できること。
		9	操作ガイダンスは大人用（漢字混じり）。こども用（ひらがな）、英文の3種類に対応できること。
		10	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からお知らせ表示ができること。
		11	各機能の利用回数統計が出力できること。
		12	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
		13	検索語のみの入力の検索機能を各図書館の公開Webサイトへ掲載できること。
		14	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。
		15	検索項目を指定してのキーワード検索ができること。
		16	キーワード検索にて、全館対象／1館限定／任意の複数館の指定ができること。また1館所蔵の資料に限定した検索ができること。
		17	全文検索ができること。
		18	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
		19	著者名＝イケナミシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
		20	雑誌ジャンル（例：料理、車、美術等）を登録しておき、特定ジャンルのタイトルを一覧表示できること。
		21	貸出ランキンガー一覧が表示できること。ランキングは資料分類や利用者の年代を指して一覧表示できること。
		22	予約ランキンガー一覧が表示できること。資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示ができること。
		23	「おすすめの本」をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。
		24	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚資料等の単位で表示すること。
		25	各種一覧の表示をタイル形式または一覧形式を選択して表示できること。
		26	検索結果一覧を並び替えてできること。

27	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
28	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
29	一覧表示から1件を選択し、詳細表示できること。
30	詳細画面では主要な項目（タイトル、シリーズ、責任表示等）を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
31	詳細画面に所蔵点数、貸出可能点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
32	詳細画面に資料の所蔵館、それぞれの館で貸出可能・貸出中・貸出禁止かが表示できること。
33	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
34	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
35	Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。
36	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
37	詳細画面より、受取可能な予約受取館の表示ができること。
38	詳細画面から予約申し込みができること。
39	予約方法は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
40	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別（窓口予約、インターネット予約等）、利用者資格、資料種別（図書、雑誌等）ごとの件数制限ができること。
41	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
42	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
43	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
44	本人への貸出中資料への予約を制限できること。
45	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者資格ごと、利用者単位に初期設定できること。
46	受取館に指定された館以外に資料に貸出可能な資料がある場合でも、予約できること。
47	予約申し込み時、申込内容の確認画面を表示すること。
48	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
49	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
50	利用者カード番号、パスワード、ワンタイムパスワードの多要素を使用したログインが可能なこと。
51	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。
52	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
53	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数の表示ができること。
54	貸出中資料照会画面から、貸出延長申し込みができること。この場合、延長回数や予約により園長の可否のチェックができること。
55	延滞利用者に対して、貸出の延長を行えないように制限できること。
56	相互貸借資料について、貸出の延長を行えないように制限できること。
57	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延長を行えないように制限できること。
58	予約中資料照会画面から、予約取消申込ができること。
59	予約を取り消した資料の表示ができること。
60	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
61	ログイン後、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
62	メールアドレス変更では、変更確認URLをメール送信し、アクセスを行うことだけで、変更完了できること。
63	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
64	多要素認証機能の使用可否は、利用者の任意のタイミングで決定でき、使用する認証情報の追加／削除が可能なこと。
65	予約申し込み時に指定した連絡方法、受取館を次回予約申し込み時に表示できること。
66	典拠を参照した詳細検索が可能であること。
67	簡易検索／詳細検索時、検索キーワードを途中まで入力すると、キーワード候補が選択（サジェスト）できること。また、表示されるサジェストキーワードは書誌情報から自動作成されること。
68	検索結果一覧／詳細画面では、検索キーワードをハイライト表示できること。
69	検索結果をキーワードでグループ化して簡単に絞り込み検索（ファセットナビゲーション）ができること。
70	予約を申し込みたい資料を一時的に保存できること。（予約かご機能）また、保存した資料について、メモ・カテゴリを登録できること。
71	設定により、予約かごを経由せず予約もできること。
72	図書館のトップページに、SNSで発信しているタイムラインなどを埋め込むことができること。
73	利用者がパスワードを忘れた場合であっても、図書館へ問い合わせをせずに利用者自身がパスワードを更新できる機能を提供していること。

		74	他館からの新刊本への予約は、一定期間受け付けないように制限できること。
		75	詳細画面では、著者名を参照した検索が行えること。
		76	利用者バーコードを表示し、利用券として使用できること。
	SDIサービス		電子メールによるSDIサービスが登録できること。 ※SDIサービス：特定テーマの最新情報を定期的に提供するサービス。
		1	例：「園芸」、「光ダイオード」などのキーワードを登録しておき、登録キーワードに合致する資料が登録（受入）された際、その資料情報（タイトル、著者名、出版社等）をメールで提供する。
		2	利用者自身がインターネット経由で自由に情報提供を受けたい内容（キーワード）を登録できること。
		3	利用者が申し込む情報配信内容について、自動で配信できること。
帳票	帳票印刷	1	統計資料はExcelと連携し、画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、Excelで2次加工（グラフ作成等）や保存することができること。
		2	利用者・所蔵情報等、任意の条件を設定し抽出する機能があり、結果がCSVなど加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSVファイルは項目見出し付きで出力されること。
		3	日本図書館協会調査票に対する項目が出力できること。
		4	統計表（日報、月報、年報）について、ひとつの出力画面から帳票を出力できること。
		5	キハラ3段、埼玉福祉会1段背ラベルが印刷できること。また、出口で印字レイアウトの調整や独自用紙への印字も可能なこと。
		6	特定の利用者資格の貸出、返却、予約を統計の集計から除外できること。
	利用者カード	1	利用者番号のバーコードを用紙に印字し、利用者カードとして使用できること。
		2	利用者番号は連続した番号を指定しても、連続しない個別の番号でも印字できること。
	帳票印刷	1	利用者一覧
		2	無効利用者一覧
		3	通知メッセージ一覧
		4	新着資料一覧
		5	無効資料一覧
		6	未利用資料一覧
		7	図書原簿
		8	図書一覧
		9	館場所要チェック資料一覧
		10	雑誌タイトル一覧
		11	貸出資料一覧
		12	予約資料一覧
		13	予約在架資料一覧
		14	予約解除資料一覧
		15	予約多資料一覧
		16	リクエスト処理一覧
		17	リクエスト統計表
		18	借受予約資料一覧
		19	時間帯別利用統計
		20	日別利用統計
		21	月別利用統計
		22	曜日別利用統計
		23	年齢・分類別貸出統計
		24	年齢・地域別貸出統計
		25	地区別資料区分別貸出統計
		26	利用者資格別資料区分別統計
		27	資料区分・地区別貸出統計
		28	貸出ランキング表
		29	年齢別貸出ランキング
		30	雑誌タイトル別貸出ランキング
		31	分類別蔵書統計表
		32	分類別蔵書統計表（リアルタイム）
		33	蔵書総括表
		34	地区・年齢別登録者統計
		35	蔵書集計表
		36	登録者集計表
		37	資料データリスト
		38	利用者データリスト

	39	貸借館別相互貸借統計
	40	分類別相互貸借統計
	41	相互貸借貸出タイトル一覧
	42	相互貸借借受資料一覧
	43	公共図書調査表
	44	蔵書点検エラーリスト
	45	不明候補資料一覧
	46	不明資料一覧
	47	除籍候補一覧
	48	資料検索結果一覧
	49	資料バーコード一覧
	50	利用者バーコード一覧
	51	利用者カード
	52	貸出レシート
	53	未返却者一覧
	54	予約連絡表
	55	予約連絡一覧
	56	配送票
	57	利用者総括表
	58	多読者一覧
	59	団体別利用者統計表
	60	統計分類別所属別貸出統計表
	61	曜日別年齢別利用者人数統計表
	62	統計分類別貸出実績表
	63	統計分類利用者資格別貸出統計表
	64	所蔵一覧
	65	年齢・地区別実利用人数統計表
	66	資料区分 - 館別返却統計表
	67	年齢 - 館別返却統計表
	68	年齢 - 館別返却統人数統計表
	69	OPAC利用件数統計表（館内、Web、携帯ごと）
	70	曜日ごと時間帯ごと統計表
	71	典拠一覧表（人名、出版社、件名）
	72	アクセス記録参照